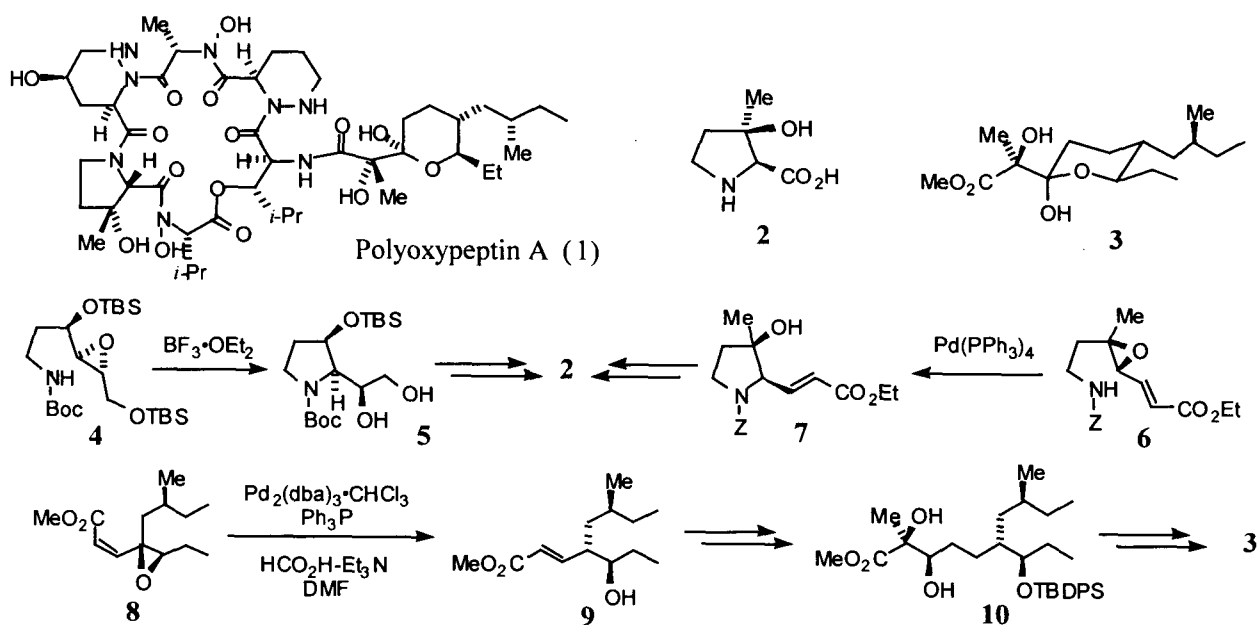


(東理大薬) ○山田 竜大・野口 泰男・小坂井 寿・小林 進

ポリオキシペプチン (1) はヒトの癌細胞に対して強力にアポトーシスを誘導することから多くの注目を集めているヘキサデブシペプチドで、新規なセグメントとして、(2*S*, 3*R*)-3-ヒドロキシ-3-メチルプロリン (2) とピラン環を有するアシル側鎖部分 3 を含むことから、合成的にも興味ある標的分子として国内外で活発な合成研究が展開されている。今回、我々は光学活性なエポキシアミン 4 の分子内環化反応、およびエポキシアミン誘導体 6 の Pd 触媒による環化反応の二つのルートによって 2 の合成に初めて成功した。また側鎖部分 3 は清水、辻らの方法を改良した Pd 触媒を用いる立体特異的な加水素分解反応を鍵反応として、(2*Z*)-アルケニルオキシラン 8 から合成することに成功した。¹⁾



文献：1) Y. Noguchi, T. Yamada, H. Uchiro, S. Kobayashi, *Tetrahedron Lett.*, **41**, 7493, 7499 (2000).